

## 小学校第6学年 国語科学習指導案

日時 平成23年6月24日(金) 2校時

指導者 教育センター所員 西山 恵美

単元名 書き手のくふうを考えながら新聞の投書を読もう

教材名 「新聞の投書を読み比べよう」「『わたしの意見』を書こう」 (東京書籍6年上)

### 【授業について】

本単元では、新聞の投書の読み比べを通して読み手を説得するための工夫を読み取り、その工夫を生かし構成を考えて意見文を書く授業を展開する。児童は、「意見文を書く」ために「新聞の投書(意見文)を読み比べる」活動を行う。「書くこと」と「読むこと」を複合させた単元を構成することで、双方の能力をより効果的に高めることができると考える。

単元を貫く言語活動として「意見文」に関する言語活動を位置付ける。単元前半の「新聞の投書を読み比べよう」では、理由付けの仕方や根拠の挙げ方を学ばせる。意見文を書いて新聞に投稿するという目標を設定することで、児童の読む目的がはっきりとし、主体的な学びが期待できる。また、単元後半の「『わたしの意見』を書こう」では、前半で身に付けた力を生かして意見文を書かせることで、身に付けた読みの視点が書くための方法として反映されていく。

日常生活に身近な新聞を教材にすることで、ここで学んだ論の展開の仕方が他教科等でも有効に働いていくと考える。

## 1 単元について

### (1) 児童観

この時期の児童は、「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍6年上)で、筆者の主張を読み取って、それに対する自分の考えをもつ学習を経験している。さらに、「学校の良さを宣伝しよう」(東京書籍6年上)では、聞き手の印象に残るように具体例を入れて、根拠や理由を明確にして話す学習をしている。また、5年生の時には、賛成・反対の立場を明確にして意見文を書く学習を経験している。このように、意見を述べた文章を利用する、文章を読んで自分の意見をもつなどの言語活動の経験はあるものの、新聞の投書を教材にして意見文の学習をすることは初めてである。

本学級の児童は、これまでの学習の中で、自分の考えを明確にし、表現する学習を積み重ねてきている。実際に、自分の意見を文章にする時の留意点として、理由を書く、主張を具体的に書く、相手が納得するように書く等を挙げている児童が約半数いる。しかし、説明的な文章を内容のまとまりに着目して読んだり、構成に目を向けて段落を分けたりすることができる児童は約3割にとどまった。また、教材として取り扱う「新聞」や「新聞の投書欄」への関心は低く、実際に投書を読んだり、どんなことが書かれているかを知っていたりする児童はごく少数である。したがって、読み手を説得するための工夫を新聞の投書から読み取ったり、その工夫を生かして意見文を書くという指導が必要であると考えられる。

### (2) 教材観

「新聞の投書を読み比べよう」は、同じテーマに対する新聞の投書が4点掲載されている説明的な文章の教材である。意見を述べた文章を内容面、構成面、表現等に注目しながら比べて読むことで、児童はそれらの視点での分析や評価ができるようになる。また、それらの投書に対してどのような意見をもつか考えさせることで、意見の広がりや社会参加への意識の向上も期待できる。

「『わたしの意見』を書こう」は、自分の考えや根拠を整理し、構成を考えて説得力のある意見文を書くことをねらいとしている。事実と意見、根拠を区別する構成の仕方や予想される反対意見に対する反論を考えておくことを習得させ、読み手を意識して意見文を書かせる教材である。論理的に考える力とともに、相手に分かりやすく伝わる文章表現力を身に付けさせることができる教材である。

この二つの教材の特性とねらいを把握した上で、児童が主体的に読み、書く活動を継続することができるように、「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元を設定する。二つの教材に共通するねらいの「自分の考えを明確にする」と、共通する言語活動として取り上げられている「意見を記述した文章を読む、書く」とを関連付けて単元を構成する。

### (3) 指導観

指導に当たっては、「意見文」に関する言語活動（「書くこと」(2)イ、「読むこと」(2)イ）を単元を貫く形で取り入れる。導入の段階では、主教材である「新聞」についてのオリエンテーションを行う。ここでは、実際の新聞を手に取り、過去に掲載された同世代の人たちが書いた投書を参考にして、指定された分量で文章を書くことの効果を学び取らせる。また、「意見文の書き方を学び実際に書いて投稿しよう」と投げ掛け、児童が一貫した目的意識をもって学習に臨むことができるようにする。

次に、「新聞の投書を読み比べよう」では、意見文を書く上での、読み手を説得するための工夫を読み取らせていく。教科書の単元の最後に掲載されている「てびき」や、「言葉の力」を先に示すことで、児童に学習の見通しや視点をもたせるようにする。構成や表現の工夫の共通点と相違点に気付くことができるよう、投書を読み比べさせるときに、色分けやまとまりごとの並べ替えなどの活動を取り入れる。このことを通して、それぞれの意見や主張、理由付けの仕方や根拠の挙げ方の特徴に気付かせ、自分が意見文を書くときに生かすようにさせる。

『わたしの意見』を書こうでは、投書の読み比べを通して身に付けた、読み手を説得するための書き方を生かして、実際に投書欄に投稿する目的で意見文を書かせる。テーマは自分で決定させ、相手意識をもって構成、記述、推敲、交流という各過程の活動を主体的に行わせていく。さらに、自分が書いた意見文を客観的な立場で読ませるなどの工夫を取り入れていきたい。

このように、「意見文」に関する言語活動を通して「読むこと」と「書くこと」の指導を行うことによって、日常生活の様々なテキストを目的をもって読んだり、自分の立場を明確にし、意見を効果的に伝えたりする能力を育むことができると考える。

## 2 単元の見直し

新聞の投書を読み比べることを通して、読み手を説得するための工夫を読み取り、自分の意見を明確に伝えるために、構成を考えて意見文を書くことができる。

## 3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	1 新聞の投書の特徴を捉え、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取るようとしている。 2 自分の意見を明確にもって意見文に表したいという願いをもち、それが伝わるように読み手を意識した文章を書こうとしている。
イ 書く能力	1 書く事柄を整理し、具体例や根拠など説得力のある構成を考えている。 【B書くこと(1)イ】 2 自分の意見を明確に伝えるために、理由や根拠、予想される反対意見とそれに対する反論を、構成を基にして書いている。 【B書くこと(1)ウ】
ウ 読む能力	1 理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて投書を読み比べ、それぞれの書き手の工夫を捉えている。 【C読むこと(1)ウ】
エ 言語についての知識・理解・技能	1 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)】

## 4 指導と評価の計画（全13時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
		○ 新聞について興味をも	・実際に新聞を手を取らせ、内容に	アー1 新聞について興

一	1	ち、意見文の特性を知る。	<p>触れさせることで、新聞への興味をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞に掲載されている投書欄を紹介し、テーマのおもしろさや文章の書き方の工夫に気付かせる。紹介する投書は同世代の作者のものとする。</li> </ul>	<p>味をもち、投書の特徴を見付けながら読もうとしている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p>
	2	○ 書き方の工夫を読み取り、実際に意見文を書くという学習課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい意見文を書くためには、どのような書き方をすればよいのかを考えさせる。</li> <li>新聞の投書欄に掲載されている作品を提示することで、自分たちも実際に意見文を書いて投稿するという目標を明確にさせる。社会参加にもつながることを伝える。</li> </ul>	<p>アー2 意見文に対して興味をもち、意見文を書く学習に見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p>
	3	<p>○ 新聞の誌面の中で、投書欄がどのように位置付けられているのかを知る。</p> <p>○ 教材文を読み、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞の投書欄に触れさせ、読者の声として定期的に取り上げられていることを理解させる。</li> <li>教材文「新聞の投書を読み比べよう」と「『わたしの意見』を書こう」の扉の部分と「てびき」を先に読ませ、書き手の工夫を捉えて意見文を書くという単元構成についてのイメージをもたせる。</li> <li>学習計画を立てさせる。</li> </ul>	<p>アー1 新聞の投書の特徴を捉え、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p>
二	4	○ 教材文の4つの投書の内容を理解し、書き手の意見や主張、その理由や根拠を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の観点を示して4つの投書を読ませ、大体的内容を捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①書き手の意見は何か。</li> <li>②根拠は挙げられているか。</li> <li>③読み手としてどんな意見をもったか。</li> </ul> </li> <li>以下のように色分けすることで視覚的に段落構成の特徴に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇書き手の意見 → 緑</li> <li>◇第1, 2の理由や根拠 → 黄色</li> <li>◇予想される反対意見に対する反論 → 赤</li> <li>◇書き手の意見(まとめ) → 青</li> </ul> </li> </ul>	<p>ウー1 理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて投書を読み、書き手の工夫を捉えている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p> <p>エー1 文章の中の構成について理解している。</p> <p>(ワークシートの記述)</p>
	5	○ 教材文の4つの投書について、それぞれ書かれている内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4時目の学習で書き込んだ色分けや内容についての気付きを見て、それぞれの内容を確かめさせる。</li> <li>4つの投書を内容で分類すると、意見が2つに分かれることに気付かせる。</li> </ul>	<p>ウー1 投書の内容を読み比べ、それぞれの書き手の意図を捉えている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p>
	6	○ 教材文の4つの投書の説得の工夫を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P68の「てびき」を利用し、それぞれの投書の説得の工夫に気付かせる。</li> </ul>	<p>ウー1 投書の内容を読み、それぞれの説得の工夫を捉えている。</p>

(本時)		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分の経験を述べる →投書①</li> <li>◇見たり聞いたりしたことを述べる →投書②</li> <li>◇資料に基づく具体的なデータを使う →投書③</li> <li>◇有名な人の言葉を引用する →投書④</li> </ul> <p>・意見文を書くときの工夫点として4つの例を使って書けばよいことを捉えさせる。</p>	(ワークシートの記述及び発言)
7	○ 自分が最も納得できる投書の一つを選び、その理由を明確に書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの投書を一覧にして比べながら読み、共通点と相違点に気付かせる。</li> <li>・教科書P68の「てびき」を利用し、納得する理由を考える観点を示し、なぜ納得したのかの理由を明確にもたせる。</li> <li>◇理由や根拠として挙げていることはどうか。</li> <li>◇理由付けの仕方や根拠の挙げ方はどうか。</li> <li>◇自分の知識や経験などと結び付けてみてどうか。</li> <li>・理由を書かせるときには、モデル文を提示する。</li> </ul>	<p>ウー1 投書を読み比べ、書き手の工夫を捉えて、納得できる理由を書いている。</p> <p>(ワークシートの記述及び発言)</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経験を思い出し、書く題材と自分の意見を決める。</li> <li>○ 自分が選んだ題材について取材する計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、疑問に思ったり困ったりしたことなどを各自想起させる。</li> <li>・説得力のある意見文を書くために必要な材料が揃うかどうか確認させ、取り上げる題材を選ばせる。</li> <li>・取材や調査などの情報収集のための計画を立てさせる。</li> </ul>	<p>アー2 自分の意見を明確にもって意見文に表したいという願いをもち、それが伝わるように読み手を意識した文章を書こうとしている。</p> <p>(ワークシートの記述及び観察)</p>
三 9	○ 説得力のある意見文の書き方について二次の学習を振り返り、構成メモを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞の投書を読み比べよう」の学習を思い出させ、基本的な構成について確認する。</li> <li>・構成メモを書かせる際に、反対意見に対する反論を取り入れる効果について考えさせる。</li> </ul>	<p>イー1 書く事柄を整理し、具体例や根拠など説得力のある構成を考えている。</p> <p>(ワークシートの記述及び観察)</p>
10	○ 取材や調査したことについて、書く材料を整理して構成を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文を書くために取材や調査したことや自分の経験を整理し、構成を考えさせる。</li> <li>・以下の観点を与え、全体の構成を考えさせる。</li> <li>①身近な経験からのきっかけがあるか。</li> <li>②理由や根拠に説得力があるか。</li> <li>③反対意見に対する反論の挙げ方</li> </ul>	<p>イー1 書く事柄を整理し、具体例や根拠など説得力のある構成を考えている。</p> <p>(ワークシートの記述及び観察)</p> <p>エー1 文章の中の構成について理解している。</p> <p>(ワークシートの記述)</p>

		に説得力があるか。	
11	○ 二次の学習を生かしながら、読み手を意識して意見文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えた構成メモを基に、文章全体の組み立てや表現の効果を考えながら意見文を書かせる。</li> <li>実際に新聞に投稿することを意識させ、文字数を限定する。</li> </ul>	イー2 自分の意見を明確に伝えるために、理由や根拠、予想される反対意見とそれに対する反論を、構成を基にして書いている。 (意見文の記述)
12	○ 意見文を仕上げ、推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き上げた意見文におかしいところがないか、見直しをさせる。他の児童とも交換させて確かめさせる。</li> </ul>	イー2 自分の意見を明確に伝えるために、構成を基にして書いているか確かめている。 (意見文の記述)
四 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた意見文をグループで読み合い、意見を伝えたり助言をしたりする。</li> <li>単元の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで書き上げた意見文を読み合い、よさを学ばせたり助言し合ったりさせる。</li> <li>単元を通して学んできたことを振り返らせ、これからの日常生活に役立たせることを促す。</li> </ul>	アー2 自分の意見を明確にもち、今後も読み手を意識した文章を書こうとしている。 (ワークシートの記述及び観察)

## 5 本時の計画 (6 / 13)

### (1) 目標

新聞の投書の理由付けの仕方や根拠の挙げ方に着目して読み、それぞれの説得の工夫を捉えることができる。

### (2) 展開

学習活動	指導上の留意点及び評価
1 前時までの学習を振り返り、本時は説得の工夫に着目して読むことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文は書き手の意見や主張、その理由や根拠などによって書かれていたことを想起させる。</li> <li>段落ごとに色分けをした投書で、内容は違っても構成は同じであることを確認させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>4つの投書の、読み手を説得するためのくふうを見つけよう。</b> </div>	
2 説得の工夫が、どこの段落に書いてあるかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げられている事実や資料に着目させ、説得の工夫が、理由や根拠について書かれている部分になされていることに気付かせる。</li> </ul>
3 4つの投書が、どんな理由付けの仕方や根拠の挙げ方の工夫をしているかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由付けの仕方や根拠の挙げ方の主なものとして、教科書の「てびき」を参考に、左の4点を示す。</li> <li>4つの投書のそれぞれの投書が、どの工夫を取り入れているか、また、それがどの部分に表現されているかについて考えさせる。</li> <li>これまで学んできた説明文の表現の工夫や意見を述べるときの工夫を思い出させる。</li> <li>全体→グループ→個人という段階を踏んで考えさせたり意見を交流させたりする中で、読み手を説得する工夫を一人でも見付けることができるようにしたい。見付けられない子に対しては、グループで話</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【理由付けの仕方や根拠の挙げ方】</b></p> <p>ア 見たり聞いたりしたことを述べる</p> <p>イ 有名な人の言葉を引用する</p> <p>ウ 自分の経験を述べる</p> <p>エ 資料に基づく具体的なデータを使う</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で → 投書1</li> <li>グループで → 投書2, 投書3</li> </ul>	

・個人で → 投書 4

し合ったことを振り返らせたり，キーワードに着目させたりするなどの手立てを取る。

**【評価】ウー1**

投書の内容を読み，説得の工夫を捉えることができる。（ワークシート）

4 本時の学習のまとめをする。

○ 説得の工夫には異なる方法があり，読み手を説得するために，内容に合った方法を取り入れることで，読み手を上手に説得することができる意見文になることに気付かせたい。

5 学習を振り返り，次時の活動を確認する。

○ 4つの投書から自分が納得できる投書を選び，その理由を交流する学習をすることを告げる。

めあて

四つの投書の、読み手を説得するためのくふうを見つけよう。

一 四つの投書が、どんな理由づけの仕方や根きよの挙げ方のくふうをしているか考えよう。

理由付けのしかたや  
根きよの挙げ方  
(P68てびきより)

- ア 見たり聞いたりしたことを述べる
- イ 有名な人の言葉を引用する
- ウ 自分の経験を述べる
- エ 資料にもとづく具体的なデータを使う

投書に どう書いているか	投書2	投書に どう書いているか	投書1
	記号		記号
投書に どう書いているか	投書4	投書に どう書いているか	投書3
	記号		記号

二 「投書（意見文）の、読み手を説得するためのくふう」についてどんなことが分かりましたか。  
意見文を書くときに「役やつてもらうこと」を入れて書くこと。

四つの投書の、読み手を説得するためのくふうを見つけることができましたか。

- ◎
- 
- △